

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：34316

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2022

課題番号：16KK0044

研究課題名（和文）イスラーム写本絵画にみる模倣の形成と展開についての実証的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）A Study of the Tradition of Imitation in Islamic Book Painting(Fostering Joint International Research)

研究代表者

林 則仁（Norihito, Hayashi）

龍谷大学・国際学部・准教授

研究者番号：20738215

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,100,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：一つの著作の複写本における絵画の伝統において、模倣の伝統を分析することによっていくつかの成果を得ることができた。カズウィーニー著『被造物の驚異』の13世紀から18世紀までに制作された挿絵入り写本計36点（一部は不完全に現存）を現物調査し、挿絵が挿入される項目（挿絵サイクル）の特質を明らかにした。また、模倣の伝統において複数の系統が存在し、それらが同時に複雑なつながりを示していることを体系的に実証した。一方で、同一著作ではなく、複数の著作にまたがって登場する特定の人物の絵画表現にも模倣の伝統がみられるのかという点にも着目し、その研究対象として<Ujウージュ>を取り上げて分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在まで同様の研究を行っている研究者はならず、イスラーム美術史研究のなかで新たなトピックを形成するチャンスにもつながった。また、イスラーム美術史の研究は欧米の研究者たちによってリードされてきたが、アジアの研究者による西洋美術史的視点から脱した新たな研究基礎が確立されていくことも望まれているなか、我が国の研究者によって本研究が遂行される意義も将来的には少なからず大きい。本研究には共同研究者をはじめ、関連する分野の研究者との連携が必要不可欠となっているが、国外での12ヶ月の研究期間で遂行できることは限られており、その後の継続的な国際的研究上の連携が本研究の成果をさらに発展させることとなる。

研究成果の概要（英文）：In the tradition of Islamic Book painting, several results were obtained by analysing the tradition of imitation. A total of 36 illustrated manuscripts produced between the 13th and 18th centuries (some of which are incompletely extant) of Qazwini's Wonders of Creation were examined in situ, and the characteristics of the items into which the illustrations were inserted (the illustration cycle) were identified. It also systematically demonstrated the existence of multiple lineages in the tradition of imitation, which at the same time show complex connections. At the same time, the study also focused on the question of whether a tradition of imitation can be found in the pictorial representation of certain characters that appear not in the same literature, but across several works, and the analysis was conducted on the Giant Uj as the object of this research.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

研究分野：美術史

キーワード：イスラーム美術史 写本絵画

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

イスラーム美術史の研究にとって、写本絵画の解明は重要な役割を担っている。宗教上の理由で多くの建築装飾や美術品などに人物や動物の具象表現が避けられてきたイスラーム地域において、人物や動物の姿が挿絵のなかで数多く描かれている写本絵画は、イスラーム地域における人物・動物の具象表現の展開を知る上で数少ない貴重な資料である。カリグラフィーや植物・幾何学・文字文様を美術の主題として置くイスラーム美術のなかで、人物・動物の具象表現は写本の挿絵のなかでのみ独自の発展を遂げており、18世紀に至るまでその発展はイスラーム地域（とりわけ、西アジア）で盛んであったことが写本絵画から理解できる。

これまでのイスラーム写本絵画研究では、特定の挿絵または特定の写本を対象にして絵画表現や図像の調査を行なったもの、もしくは特定の時代・地域のなかで制作された写本絵画の様式について分析したものの、いずれかが主流をなしてきた。これら研究により、多くの作品や時代・地域が調査対象とされて明らかにされたことも多い。そのなかで、イスラーム写本絵画を体系的にイスラーム美術史のなかに位置づけるという試みがなされる準備は十分とはいえないまでも整っているように思えるのだが、この試みは未だ活発ではなかった。これまで、写本絵画研究として作品や時代・地域に注目する一方で、著作ごとの挿絵研究がまだ十分になされていないことがその一因として議論されており、同一著作の複写本の挿絵を、時代や地域を超えて比較分析する研究が不足しているために、イスラーム写本絵画の文化を体系的に扱うことができていないことが指摘されていた。その結果、それぞれの時代・地域における絵画様式のみが断片的にイスラーム美術史のなかに存在している形となっていた。

2. 研究の目的

上記を踏まえて本研究では、従来あった写本絵画の図像分析や具象表現の特徴についての解明ではなく、一つの著作の複写本の挿絵を時代の流れに沿って追っていき、いかに絵画表現の伝統が形成され、それが模倣されながら新しい表現に変容していくのかを挿絵の比較分析をすることで明らかにしていくことを目的とした。

本課題の主たる研究者は、基課題でカズウィーニーの『被造物の奇事と存在物の珍事』の挿絵における模倣の伝統と変容について詳細な解明を行っており、この研究を格段に発展させるため、変容を遂げるに至った背景をパトロンや制作環境などから探り、他の著作写本やそれ以外のメディア（とりわけ陶器とタイル）でみられる絵画表現との比較分析を行うことで、イスラーム美術史における写本絵画の位置付けと模倣の伝統の重要性について踏み込んだ議論が求められる。これによって示される結果は、基課題がイスラーム美術史において模倣の伝統を示す最良の例のひとつであることを多角的に示し、基課題の研究意義も大きいものとすることができると考えた。

また、本研究では、11世紀の医学者イブン=パフティーシュー著『動物の効用(*Kitab Na't al-Hayawan*)』の写本絵画において模倣の伝統の研究を行ってきたロンドン大学 SOAS の Anna Contadini 教授と共同で、『被造物の奇事と存在物の珍事』と『動物の効用』における模倣の伝統と変容についての比較分析を行い、パトロンや写本制作環境の相互関係の解明、さらにイスラーム陶器およびタイルにみられる絵画表現との詳細な比較分析から、イスラーム美術史における人物・動物の具象表現の諸相を解明することも重要と考えた。

そこで、本研究の目的はイスラーム写本絵画を体系的にイスラーム美術史のなかに位置づけるという観点から、(A)イスラーム地域で数世紀にわたって何冊も複写制作されてきた著作の挿絵入り写本の挿絵調査を行い、同一著作における複写本間での挿絵の絵画表現の特質を把握する。(B)特に、模倣の伝統の重要性に着目し、挿絵画家が模倣の伝統を受け継ぎながら、どこに/どのように独自の表現を加えることの試みがなされてきたかを解明し、画家による表現の変化がその後の伝統となり模倣されていく過程を明らかにし、これらとパトロンや写本制作環境の相互関係の一層の解明に努める。(C)また、これらに関連づけられるイスラーム陶器やタイルでの絵画表現との比較分析から、イスラーム美術史における人物・動物の具象表現の諸相を明らかにすることを試みる、という3点を重点的な研究目標に設定した。

3. 研究の方法

イスラーム地域の主要な美術品は19～20世紀にかけて大量に西ヨーロッパ（とりわけイギリス、フランス、ドイツ）へ渡り、これまでのイスラーム美術史研究の最大の基礎資料となっている。本研究ではロンドン大学 SOAS を研究拠点とし、イギリス、ドイツ、フランスにあるイスラーム美術コレクション（おもに写本絵画、陶器とタイル）を研究資料とした。

本課題の主たる研究者は、本研究開始までに『被造物の奇事と存在物の珍事』における模倣の伝統と変容についての分析を完了し、(1)ロンドン大学 SOAS において、Contadini 教授とともに『動物の効用』と『被造物の奇事と存在物の珍事』の挿絵にみる模倣の伝統と変容についてそれぞれの研究成果から類似する特性を明示し、イスラーム写本絵画における模倣の伝統の形成と変容のプロセスを示した上で、(2)写本絵画にみられる模倣の伝統が同じく具象描写のみみられる他のメディアで確認できることを鑑み、その実相を写本絵画のそれと比較分析する目的でイスラーム陶器およびタイルに描かれた人物・動物の具象表現を体系的にデータ化して収集し模倣の伝統の形成と変容の過程を解析する方法を採用した。上記については、イスラーム美術を収蔵するヨーロッパの主要機関である大英博物館（ロンドン）、V&A 美術館（ロンドン）、イスラーム

ム美術博物館（ベルリン）、エステンセ美術館（モデナ）、デイヴィッド・コレクション（コペンハーゲン）において現地調査を行なった。

これら研究を踏まえて、(3) イスラーム美術史全体における人物・動物の具象表現にみる模倣の伝統の位置づけを論証し、これら具象表現が模倣の伝統を形成し脱却して新たな発展をみるに至った過程の実証的な解説を試みた。

4. 研究成果

まず、現在まで同様の研究を行っている研究者はおらず、イスラーム美術史研究のなかで新たなトピックを形成するチャンスにもつながったことは国際共同研究の大きな成果であることは間違いない。また、イスラーム美術史の研究は欧米の研究者たちによってリードされてきたが、アジアの研究者による西洋美術史的視点から脱した新たな研究基礎が確立されていくことも望まれているなか、我が国の研究者によって本研究が遂行される意義も将来的には少なからず大きいであろうと考えられる。本研究には共同研究者をはじめ、関連する分野の研究者との連携が必要不可欠となっているが、国外での12ヶ月の研究期間で遂行できることは限られており、その後の継続的な国際的研究上の連携が本研究の成果をさらに発展させることとなる。

ここでは本研究の目的で設定した重点的な3点（A～C）の目標について、以下でその成果を簡潔に述べる。

（1）同一著作における複写本間での挿絵の絵画表現の特質の把握

一つの著作の複写本における絵画の伝統において、模倣の伝統を分析することによって以下の成果を得ることができた。まず、カズウィーニー著『被造物の驚異』の13世紀から18世紀までにイラク、イラン、トルコ、インドなどで制作された挿絵入り写本計36点（一部は不完全に現存）を現物調査した。各写本に関する詳細な分析などは今後の成果物として出版の準備を進めているが、膨大なデータを収集しており、挿絵画像は2500点以上となるために各挿絵の分析には多くの時間と労力を費やす必要があるが、主たる研究者一人で作業しているため本研究課題終了時においても多くの作業を残している状況である。現在までに把握できている特質は、挿絵が挿入される項目（挿絵サイクル）において時代・地域によって大きなバラつきが確認できる一方で、同時代・同地域で制作された写本群（特に15世紀以降）は一定の類似性を帯びており、挿絵の様式も当然ながら同類である。この特質は写本の制作環境を探る上で重要な手がかりとなる。

（2）模倣の伝統の形成と発展の過程、パトロンと制作環境との関連性

本研究では、上記で言及した写本における挿絵の比較分析によって明確な模倣の伝統が時代・地域を超えて広がっていることが確認された。また、模倣の伝統において複数の系統が存在し、それらが同時に複雑なつながりを示していることを体系的に実証できるようになったことは大きな成果であり、その展開過程を詳細に示すことが次の研究につながる事となる。上記（A）の成果がより明確なものとなれば、模倣の伝統とパトロンや制作環境との関連性が具体的に実証できるのだが、そのための作業に膨大な時間が必要となっており、現在においても作業は進行中である。一方で、同一著作ではなく、複数の著作にまたがって登場する特定の人物の絵画表現にも模倣の伝統がみられるのかという点にも着目し、その研究対象として〈Uj ウージュ〉を取り上げて分析を行った。これについてはすでに論文の形で出版されている。ウージュという巨人はイスラームの宗教書や預言者伝集、博物誌や占いの書などに登場するが、その姿が挿絵で表現されるにあたって特定の表現がモデル化され踏襲されていくことで模倣の伝統が成立する過程を分析して論じた。この一連の展開がイスラーム写本絵画における模倣の伝統で一般的に共通するものであると判断することはまだできないが、考察する上で一つの基準となりうるであろう。

（3）イスラーム美術史全体における人物・動物の具象表現の諸相

写本絵画にみられる模倣の伝統が同じく具象描写のみられる他のメディアで確認できることを鑑み、その実相を写本絵画のそれと比較分析する目的でイスラーム陶器およびタイルに描かれた人物・動物の具象表現を体系的にデータ化して収集し模倣の伝統の形成と変容の過程を解析するため、大英博物館（ロンドン）、V&A美術館（ロンドン）、イスラーム美術博物館（ベルリン）、エステンセ美術館（モデナ）、デイヴィッド・コレクション（コペンハーゲン）において現地調査を行なった。特にエステンセ美術館は共同研究者のコンタディーニ教授と共同で現地調査を敢行し、同美術館が所蔵する未公開の金属器10点を調査した。その成果はコンタディーニ教授の出版物において一部公表されており、このほか国際共著としてさらに出版物の準備も進行している。

本研究課題の遂行中に新型コロナウイルス感染症（Covid19）が世界的に感染拡大したことで、当初の研究計画を大きく変更しなくてはならなくなったことは極めて残念であり、国際共同研

究を遂行させるための大きな障害となってしまったことはやむを得ないとはいえ、大きなチャンスを失ったことには悔しさが残る。当初の研究計画では国際シンポジウムを開催して研究成果を国外に発信することを想定していたが、それができなかつただけでなく、主たる研究者と共同研究者ともに勤務先でのオンライン対応に多くの時間を奪われ、研究活動が長期間妨げられたことは研究成果が遅れる主な原因となっている。終了時まで多くの出版が間に合わなかったことは残念であるが、引き続き分析を進めて国際的に研究成果を公表することに全力で努めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Anna Contadini	4. 巻 -
2. 論文標題 Intertextual Animals: Illustrated Kalila wa-Dimna Manuscripts in Context	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Les periples de Kalila et Dimna. Quand les fables voyagent dans la litterature et les arts du monde islamique	6. 最初と最後の頁 95-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Anna Contadini	4. 巻 -
2. 論文標題 Changing Perceptions of Middle Eastern Objects and Cultures in Eighteenth-Century Europe	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Rediscovering Objects from Islamic Lands in Enlightenment Europe, Studies in Art Historiography	6. 最初と最後の頁 23-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Anna Contadini	4. 巻 -
2. 論文標題 'The Middle Eastern Intellectual and Artistic Context at the Time of Ariosto	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ariosto and the Arabs: Contexts of the Orlando Furioso	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 林 則仁	4. 巻 -
2. 論文標題 イスラーム写本絵画にみる巨人の表象ーウージュの絵画表現と図像の象徴性についてー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 「巨人」の場<トポス> 古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷	6. 最初と最後の頁 83-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 林 則仁	4. 巻 -
2. 論文標題 スペイン・北アフリカのイスラーム美術	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イスラーム文化事典	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norihito HAYASHI	4. 巻 22
2. 論文標題 Some Observations on the Illustrations of Monsters: The Earliest Images of Monstrous Races appeared in the al-Qazwini's Wonders of Creation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Anna Contadini	4. 巻 1
2. 論文標題 Wonderous Animals: Zoomorphic Metal Figures from al-Andalus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Lowe, Wolfin, Greif: Monumentale Tierbronzen im Mittelalter	6. 最初と最後の頁 213-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 則仁	4. 巻 239
2. 論文標題 中東世界の百科全書に描かれる異形の種族	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学 この世のキワ <自然>の内と外	6. 最初と最後の頁 201-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 則仁	4. 巻 -
2. 論文標題 写本絵画	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東・オリエント文化事典	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norihito Hayashi	4. 巻 23-5
2. 論文標題 Scientific or narrative? The tradition of illustration of the al-Qazwini 's Ajaib al-Makhlūqat in the late 15th century persian manuscripts	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Advanced Science Letters	6. 最初と最後の頁 4701-4704
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 林 則仁
2. 発表標題 巨人のイメージ イスラーム写本絵画にみる巨大な身体を持つ図像
3. 学会等名 同志社大学一神教学際研究センター公開講演会「巨人の場 (トボス)」 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 則仁
2. 発表標題 山中由里子氏「巨人の名残りー遺物をめぐる中世イスラーム世界の驚異譚と巨人」へのコメントとして
3. 学会等名 同志社大学一神教学際研究センター公開講演会「巨人の名残りー遺物をめぐる中世イスラーム世界の驚異譚と巨人」 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Norihito HAYASHI
2. 発表標題 Visual Images of Monstrous Creatures in the Medieval Islam: Were There Transmission of the Images between East and West?
3. 学会等名 15th International SilkRoad Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Anna Contadini
2. 発表標題 Scholarship and Art: Visual and Intellectual Encounters across the Mediterranean
3. 学会等名 Institute of Advanced Studies, University of Bologna (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Anna Contadini
2. 発表標題 Book culture in the Arab world: an illustrated herbal of the 13th century
3. 学会等名 Oxford Bibliographical Society and the Centre for Islamic Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Norihito Hayashi
2. 発表標題 Paintings of Two Significant Islamic Manuscripts from the 15th Century Shamakha
3. 学会等名 4th International Conference on History, Art, Literature and Culture in Black Sea Region and South Caucasus (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norihito Hayashi
2. 発表標題 Observations on the Illustrations of Monsters: The Earliest Images of Monstrous Races in al-Qazwini's Wonders of Creation
3. 学会等名 International Workshop on Wonder and Uncanny, National Museum of Ethnology, Osaka (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 則仁
2. 発表標題 イスラームの博物誌にみる異形の身体
3. 学会等名 国立民族学博物館 共同研究<驚異と怪異 ー想像界の比較研究ー> (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	コンタディーニ アナ (Contadini Anna)	ロンドン大学東洋アフリカ学院・Department of Art・Professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	SOAS, University of London			